

支えあいのまちづくり協議体（日本橋地域）実施報告

中央区に住む方・働く方ができる支えあいの形について、身近な地域で話し合う「支えあいのまちづくり協議体（第2層協議体）」の令和3年度第4回目を、日本橋地域（はまる一む）で開催しました。

1 実施日

令和4年3月15日（火）14:00～15:30

2 出席者

日頃高齢者と関わる機会の多い地域住民、関係機関、生活支援コーディネーター 計7名

3 内容

- ・出席者近況報告
- ・第1層協議体実施報告
- ・意見交換

高齢者が外出するうえで必要な仕組みづくりについて

4 出席者近況報告

前回の協議体以降の地域の様子や変化、高齢者を取り巻く環境について、各々から報告を行った。

- ◆ 1月中旬以降、まん延防止等重点措置が適用され、高齢者に限らず人と人が会う時間が減っている。
- ◆ ボランティア活動を通じて高齢者が「人と会う機会」を求めていることを確認することができた。
- ◆ 温かくなるにつれ、1人でお散歩をしている高齢者を度々見かけるようになった。
- ◆ 冬場は気候やコロナウイルスの影響もあり、閉じこもりがちになる高齢者が一定数見られた。
- ◆ 地域活動を久しぶりに実施し、高齢者が集う機会を設けることができた。3月下旬にも活動を予定している。
- ◆ コロナ禍が長期化するなかで高齢者から「生活がつまらない」という話を伺った。そんな中で自分にできることとして高齢者宅への電話連絡を再開し、高齢者から「嬉しい」という声をいただけたのは良かった。
- ◆ 区が実施する「在宅高齢者介護者慰労事業」で支給される食事券等について使い勝手に難しさを感じている介護者が一定数いらっしゃるという話を伺った。
- ◆ 対面活動は休止しているが、手紙を通して交流を図り、近況や悩みごとを伺っている。現在は返信のあった悩みごとについてみんなで共有し、解決策がないか模索している。
- ◆ 人は「会うこと」や「話すこと」で元気になることがあるため、そのあたりの大切さ改めて感じている。
- ◆ 要支援や元気な方は自己防衛の観点から自宅に閉じこもる傾向があり、要介護の方は逆に閉じこもることで身体が動かなくなることを恐れ、外出される傾向が見られた。
- ◆ ここ2、3ヶ月の間、高齢者の転入が増えてきており、中央区の地域特性の1つだと実感している。

5 第1層協議体実施報告

1月に開催された「中央区地域支えあいづくり協議体（第1層協議体）」について実施報告。今回の第1層協議体では、京橋・日本橋・月島の第2層協議体の実施状況について説明したのち、地域ごとの小グループに分かれて意見交換を実施したことを報告。日本橋地域に関しては第2層協議体で話題に上がった「高齢者が

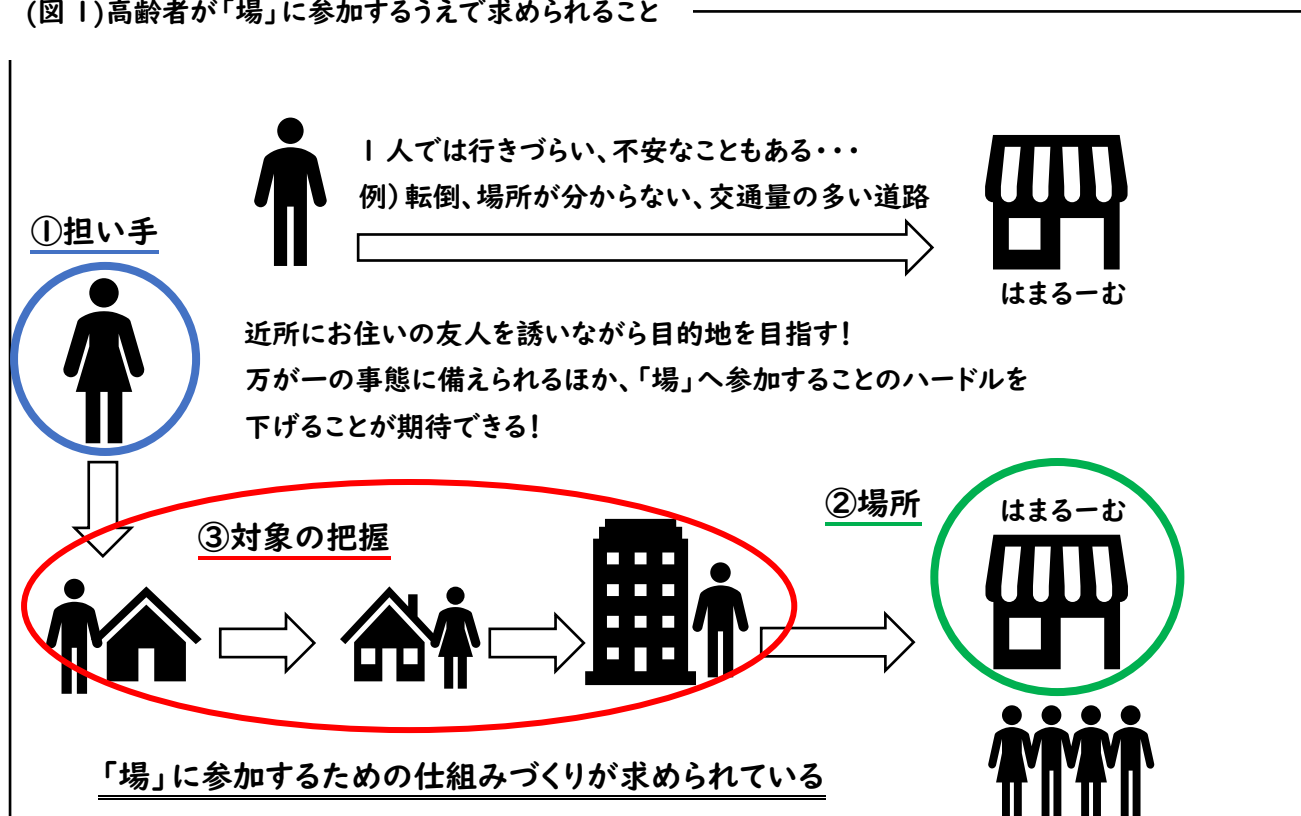
場に参加する仕組みづくり」について積極的な意見交換が行われ、参加者間で交流の輪を広げることや町会との連携の在り方についてフィードバックがあったことをお伝えした。

6 意見交換：『高齢者が外出するうえで必要な仕組みづくりについて』

第1層協議体の報告を踏まえ、「高齢者が外出するうえで必要な仕組みづくり」（図1）について下記の3点を踏まえ、意見交換を実施。①担い手の発掘。②日本橋地域で高齢者が集える場はどのような場があるか。

③ひとり暮らし高齢者や他者とのつながりが希薄化している高齢者とどのように繋がるか、把握するか。

（図1）高齢者が「場」に参加するうえで求められること



①担い手の発掘

- ・「虹のサービス」の協力会員
- 地域に身近な存在かつ、ボランティアな気持ちを持ち合わせているため、担い手になりうるのでは。また、オリエンテーション等の際に「担い手募集」や「担い手講座」を行うなどの工夫をすることも考えられるのではないだろうか。
- ・転入者が多いということは中央区に「魅力」や「好感」を持っている方が多いとも言える。そういった中央区を好きな方を担い手に据えられると良いと思う。
- ・子育て世代は子どもの成長と共に区外へ転居されるケースが多く、長期間担い手として役割を担うことが難しい。また、転居を前提に生活している方は「地域」に対する帰属意識が比較的薄い傾向にあるため、日本橋地域が好きな方を担い手として育て、長く活躍してもらえたらと感じている。
- ・中央区内で居住しながら仕事をしている方（飲食店や商店）は日頃の人とのつながりや地域行事への参加などを通し、「地域」に対する思いや責任感の強い方が多い印象がある。
- ・「参加型の担い手」や「地域の方に声をかけてくれる担い手」などあらゆる担い方があって良い。
- ・担い手の発掘について模索しつつ、まずは第2層協議体のメンバーが担い手として実践し、そこから周囲に声を掛け、地域の方を巻き込んでいく必要がある。

- ・信用金庫や郵便局が高齢者の見守りの役割を果たしている面がある。
- ・大人になってから急に高齢者と関わることは難しい側面がある。そのため、子どもの頃から福祉や地域に関心を持ってもらう取り組みを行うことが大切ではないか。

② 日本橋地域で高齢者が集える場はどのような場があるか

- ・高齢者が集える場に関しては区役所が把握している情報(通いの場など)を頼りに参加されている方が多い。
- ・「自宅からの近さ」より場の「内容」や「雰囲気」を重視して足を運ばれる方も少なくない。
- ・集える場=「高齢者通いの場」ということを知っている人は問題ないが、通いの場や地域のサロン活動を知らない方にとっては参加のハードルが高く、そのあたりも踏まえて一緒に同行してくれる担い手の存在が今後大切になってくると思う。
- ・日本橋地域内でも地域性があり、浜町や蛸殻町のあたりは高齢者の集える場がなく、遠方まで足を運ばざる得ない状況になっている。

③ ひとり暮らし高齢者や他者とのつながりが希薄化している高齢者とどのように繋がるか、把握するか。

- ・地域で生活するなかで挨拶をする程度の関わりのある方はいらっしゃるが、その人が「どこの・誰なのか」は分からないことが多い。そういった方が急に姿を見せなくなる際は心配する思いもあるが、個人情報を知りたくないので親しくもないため、難しさを感じる。

7 今後のスケジュール

次回は5月中旬以降に開催予定。